

## 1. (2) の作成例

出典 (原典)

余白に「出典 (原典)」の書名、ページ、図版番号、Web 等の URL を記載してください。

### 出典

空気調和・衛生工学便覧 第 14 版第 1 編

4 ページ、図 1.1 建築規模と各手法のウエイトの概念図

れた規制を守る」という単なる道法姿勢ではなく、問題の当事者として、社会に対してそれらの解決に向けた提案や各種情報発信をする姿勢が要求される。

以上のように、空衛技術には高い技術者倫理が必要である。このような位置づけから、空衛工学会では技術者の倫理に関して規定が作成されている<sup>4)</sup>。

### 1.3 建築の各種条件と空衛技術

建物内環境の調整手法には前述したように「建築的手法」、「設備的手法」、「人間的手法」があり、空衛技術の発展は設備的手法を優勢にしてきた。しかし、消費する資源の大きさを考えるとき、これらの手法の選択は建築の規模、用途などに応じて適切な選択がなされるべきである。例えば、建築の規模とこれらの手法のウエイトは図 1.1 に示すような傾向となるであろう。近年、設備的手法

サブシステムからなっている。表 1.1 に、流れるものによって物質代謝系、水代謝系、エネルギー・熱代謝系に分けて、それぞれの都市インフラを示す。

一例として、エネルギー・熱代謝系の欠陥をみてみよう。表 1.1 に示したように、現在はエネルギー・熱代謝系に関しては処理インフラの概念は存在しない。この結果がヒートアイランド問題であり、この欠陥の是正のために「処理」の概念は必要である。このとき、熱の処理手段として潜熱化、すなわち、湿式放熱器の採用が期待される。現在、乾式放熱器が増えつつあるが、湿式放熱器はシステム効率を向上させる特性も有しており、放熱器の選択は再評価されるべきである。なお、都市の中で水を積極的に蒸発させて顕熱を潜熱化することも、エネルギー・熱代謝系の「処理」と考えるべきである<sup>5)</sup>。

#### 1.4.2 都市代謝系の発展の経過

現代都市の特徴は巨大産業都市ということにある。こ

該当箇所を  
赤枠で囲む

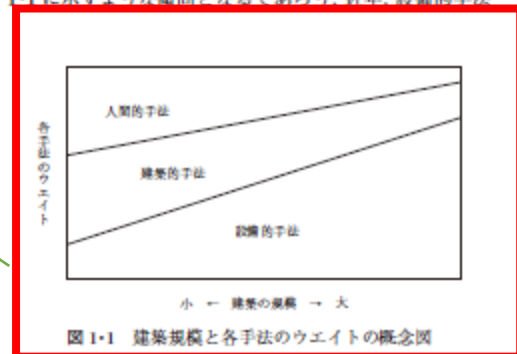


図 1.1 建築規模と各手法のウエイトの概念図

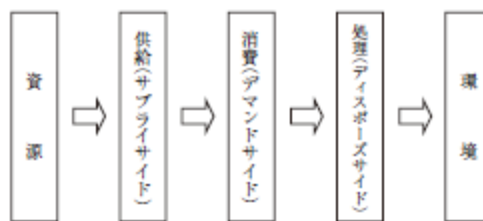


図 1.2 都市代謝系の構成

表 1.1 代謝系 供給・処理インフラ

代謝系	流れるもの	供給インフラ	処理インフラ
物質代謝系	もの	流通系	ごみ処理
水代謝系	水	上水道	下水道
エネルギー・熱代謝系	エネルギー	電力・ガス・石油	なし

転載先

p.102 図 5.12

余白に「転載先」の該当ページ、図版番号を記載してください。

1. (3) の作成例

転載先

余白に「転載先」の書名、ページ、図版番号等を記載してください。

転載先

空気調和・衛生設備の基礎

p.102 図 5.12 ○○○○の概念図

○○○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .

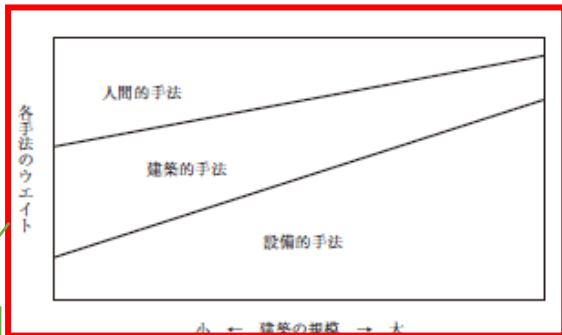
○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .



出典

空気調和・衛生工学便覧 第14版第1編  
4 ページ、図 1.1

該当箇所を  
赤枠で囲む

○○○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .

○○○○○○○ . . . . .

余白に「出典（原典）」の書名、ページ、図版番号、Web 等の URL を記載してください。